

十勝農業の今を知り 未来を読み解く



ビート横ばい、小豆拡大 22年産の作付指標面積

道農協畑作・青果対策本部が、各地の作付意向を踏まえて設定した2022年産の作付指標面積では、砂糖の在庫増を受けてビートはほぼ据え置かれ、需要が回復傾向にある小

豆は拡大した。ジャガイモは加工用で面積を増やした。

近年の砂糖消費の減少傾向にコロナ禍が重なり、ビート糖の在庫は積み上がっている。その影響でビートの

指標面積は、全道が前年実績から横ばいとなる5万7500畧。主要産地の十勝も前年実績とほぼ同じ2万5338畧になった。

一方、小豆は道産小豆への需要回復が進んでおり、全道では前年実績から、16.3%増の2万2100畧となった。十勝は13.7%増の1万5074畧に設定されている。

小豆はコロナ禍で需要が減ったが、消費拡大策や輸入小豆からの置き換え対策で、消費が戻ってきている。ホクレンでは「道産小豆の供給量に不安が生じることになれば、再び海外産に需要が流れてしまうことになりかねない」と懸念。安定供給に向けて作付け確保を望んでいる。

小麦は、外食産業の需要減や平年作を上回る年が続いた影響で、小麦

り、外食産業などが抱える在庫が膨らんでいる。ただ、道産小麦の位置付けは増してきて、さらなる需要創出に向けても安定供給体制が重要と判断。全道、十勝共に地区の意向通りの面積となった。

ジャガイモは、労働力が必要で作付面積の減少が続く中、安定供給の維持が求められる。同本部は今回、5年後の需要を見通した「目指す方向性」を定め、生食用は20年産の需要量を維持し、加工用はチップ用の対応と輸入ジャガイモからの置き換えを目指すことになった。22年産は、種子ジャガイモの不作で十分な種イモが確保できない状況のため、「できる限りの作付けをお願いしたい」としている。



道産や十勝産の安定供給を確保するため22年産の作付指標面積が拡大した小豆

◆ 2022年産の主な畑作物作付指標面積

※秋まき小麦は2023年産の指標面積

	全道			十勝		
	作付指標面積(ヘクタール)	意向面積比増減率(%)		作付指標面積(ヘクタール)	意向面積比増減率(%)	
秋まき小麦	10万2270	0		4万0689	0	
春まき小麦	1万6891	0		679	0	
大豆	3万6500	2.6		9110	2.6	
小豆	2万2100	13.7		1万5074	13.7	
ジャガイモ	生食用	-5.2		5243	5.2	
	加工用	6.7		1万0277	6.6	
	でんぷん原料用	2.2		4744	2.2	
	種子用	1.6		2144	1.6	
ビート	5万7500	0		2万5338	0	

春作業でスタートダッシュ!! 事前の動作確認、ヨシ 10 条

Trimble GFX シリーズ 起動時チェックリスト ヨシ! 10 条

事前の動作確認で、農繁期をスムーズにスタート!

- ☐ 使い方の予習・復習はしたか
- ☐ ディスプレイの電源はつくか
- ☐ 位置情報補正サービスはつながるか
- ☐ ケーブルにゆるみはないか
- ☐ アンテナマークは緑色か (重要!)
- ☐ エラーコード*が表示されていないか (重要!)
- ☐ 自動操舵は ON になるか
- ☐ 車両設定・作業機設定はあっているか
- ☐ AB 線上をまっすぐに走るか (重要!)
- ☐ 掛け合わせは問題ないか (重要!)

※トラクターは必ず農機のない場所に移動してから行ってください。
※エラーコードが表示されたら、ご購入頂いた販売店にエラーコードの内容をお問い合わせください。
※自動操舵機能使用中はトラクター・田植え機から離れないようにしてください。

株式会社ニコン・トリンブル
農業システム営業部
東京都大田区南蒲田 2-16-2 テクノポート大田生命ビル

チェックリストは
ここから印刷できます!!

株式会社ニコン・トリンブル
農業システム営業部
<https://www.nikon-trimble.co.jp/>